

京都府の定置網で寒ブリが豊漁

京都府の基幹漁業である定置網では、年間を通して様々な種類の魚が漁獲されます。中でもブリは、まとまって漁獲されることに加え単価も高いことから、定置網漁業の重要種となっています。ブリは春になると餌を求めて日本海を北上し、冬には脂肪を蓄えて産卵のため南下します。南下する個体は寒ブリと呼ばれ、日本海の代表的な冬の味覚として、各地で漁獲されます。

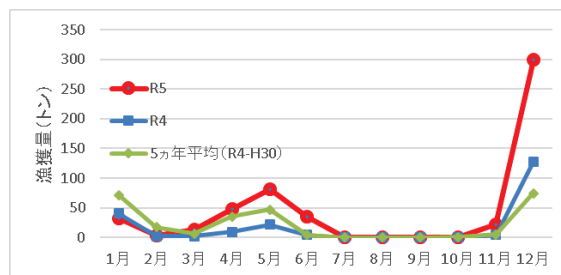
京都府では、令和5年11月下旬以降、魚体重が9～10kgのブリの漁獲量が増え始め、12月には昨年の2倍強(5ヵ年平均の約4倍)の漁獲がありました。このようなブリの豊漁は、京都府だけでなく、日本海側の各地でも報告されています。

ブリの豊漁の原因については明らかではありませんが、沖合の水温が低く、それを避けたブリが比較的沿岸を回遊したため、漁獲が多くなったと考えられます。

今後も引き続き、情報やデータの収集、分析を進め、ブリ資源の動向を調査していきます。



舞鶴市場にならぶブリ



ブリ銘柄(約4kg以上)の月別漁獲量